



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-89

(2024.10.28)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

上席主任研究員 薬品 和寿

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

社会・環境課題解決に向けた「インパクト」の創出への期待

－「情報の非対称性」の解消に向けて－

ポイント

- (株) みずほフィナンシャルグループの「インパクトビジネスの羅針盤」や(株) 三井住友フィナンシャルグループの「インパクトレポート 2024」では、「インパクト」の定義が明快に示される等、ステークホルダーの間で「インパクト」を巡る“共通言語”を創り出していきたいという姿勢がうかがえる。
- (株) 丸井グループの「IMPACT BOOK 2024」では、事業戦略とストーリーをロジックモデルへ落とし込み、インパクト達成までの道筋が明快に示される等、透明性の高いインパクト開示が行われている。
- インパクト開示を巡る対話では、投資家と企業の双方で「情報の非対称性」の解消に努め、平等・公平・対等な関係が維持されることが望まれているといえるのではないだろうか。

1. はじめに

産業企業情報 No. 2024-10¹ (2024 年 10 月 7 日発行) では、企業の SDGs への取組みを環境面・社会面・経済面から評価し、継続的に支援をするための資金供給の手段である、ポジティブ・インパクト・ファイナンス (PIF) について、信用金庫ならびに中小企業の取組み事例を紹介した。こうした“地域発”の PIF の地道な積み重ねが、インパクトファイナンスの主流化に大きく貢献していくことへの期待は大きい。

また、No. 2024-12² (2024 年 4 月 15 日発行) では、金融庁が 2024 年 3 月 29 日に公表した「インパクト投資 (インパクトファイナンス) に関する基本的指針」について紹介した。本指針では、インパクト投資と一般的な ESG 投資との違いが示されるとともに、インパクト投資の 4 つの基本的要素³が示され、特に「意図」、すなわち社会・環境課題の解決に貢献する意図があることが期待されている。

本稿では、社会・環境課題の解決に資する「インパクト」の創出に向けて、ステークホルダーとの対話ツールを公表している (株) みずほフィナンシャルグループ、(株) 三井住友フィナンシャルグループならびに (株) 丸井グループの事例を紹介する。

¹ 当研究所ホームページ (<https://www.scbri.jp/reports/industry/20241007-pif.html>) を参照

² 当研究所ホームページ (<https://www.scbri.jp/reports/newstopics/20240415-post-485.html>) を参照

³ 「意図」、「貢献」、「特定・測定・管理」、「市場変革等の支援」の 4 つが示されている。

2. 社会・環境課題解決に向けた「インパクト」の創出に向けて

(1) 銀行業における代表的な事例

(株) みずほ
フィナンシャルグループは、2024年5月14日、「インパクト・エコノミー⁴」の実現に向けた一歩として、「インパクトビジネスの羅針盤⁵」を公表した(図表1)。本羅針盤の巻頭言にあるとおり、2023年に創業150周年を迎えたことをきっかけに、新たなパーパス「ともに挑む。ともに実る。」を掲げ⁶、

(図表1)「インパクトビジネスの羅針盤」のエグゼクティブサマリー

» めざす姿：お客さまと〈みずほ〉による価値共創

お客さまとともに、インパクトと収益の創出の好循環を実現し、社会課題の解決と企業価値の向上を実現する

» 〈みずほ〉のインパクトビジネス

サステナブルな社会の実現を目指し、
金融の枠組みを超えてお客さまの事業活動に貢献しながら、
お客さまの意思決定や事業経営にインパクトが取り入れられるよう働きかけを行い、
お客さまとともにインパクトと収益を創出し企業価値の向上の実現を目指す取り組み

» インパクトビジネスの可能性

「イノベーション」… 社会課題の解決に不可欠なイノベーションを促進

「企業」… 新しい“モノサシ”であるインパクト測定・評価により企業価値の向上を実現

「金融機関」… リスク管理を高度化し、事業機会の創出に貢献

〈みずほ〉の強み

- ✓ 創業以来、産業・事業の発展に貢献してきたアイデンティティ
- ✓ 新しい“モノサシ”に必要となる、社会・環境知見、産業知見
- ✓ お客さまをはじめとした多様なステークホルダーとのつながりと、それを支える総合金融力

(出所) (株) みずほフィナンシャルグループ「インパクトビジネスの羅針盤」3頁

に、新たなパーパス「ともに挑む。ともに実る。」を掲げ⁶、洪沢栄一氏の「公益の重視」というDNAを脈々と受け継ぐことで、「サステナビリティ」に取り組むことは当然であるという姿勢が示されている。本羅針盤では、「「インパクト」を志向することとは、・・・自組織中心の発想から、社会・環境を中心とする発想へと、視点を転換すること」と明記し、「インパクト」の定義づけも明快に示されるとともに、巻末には用語集も添付され、分かりやすい解説が多く加えられている。「インパクト」は、広がりのある概念であるため、取引先に対して「どういうインパクトが創れるか」を提案しながら事例を積み上げて共有していくことが大切であるとの考えから、取引先とともにリスクテイクをしながら取り組んでいる「価値共創投資」の事例等も紹介されている。本羅針盤では、こうした事例を共有しながら、ステークホルダーの間で「インパクト」を巡る“共通言語”を創り出していきたいというメッセージが込められているといえよう。

(株) 三井住友フィナンシャルグループは、2024年8月5日、邦銀初の「インパクトレポート」を公表した(図表2)。本レポートは、巻頭言にあるとおり、2023年4月からの中期経営計画に基づき、「物差しの変化を先取りしよう」という想いで作成されている。また、投資家等の外部のステークホルダーだけではなく、同グループが掲げるビジョンへの“腹落ち”を目的に、従業員に対するメッセージも込められている。インパクト指標が社会的に定義付けなされていない中で、同グループにとってのインパクトと

⁴ 「インパクトビジネスの羅針盤」15頁では、「社会及び環境インパクトの測定(・マネジメント)が、あらゆる経済活動に統合され、政府・ビジネス・投資・消費における意思決定の中心にあること」と定義されている。

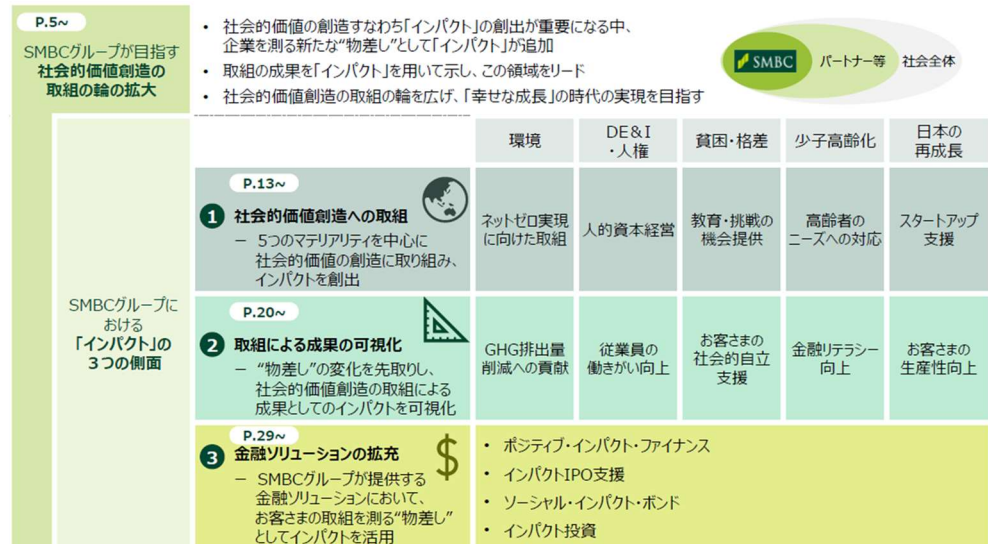
⁵ <https://www.mizuho-fg.co.jp/release/20240514release.jp.html> を参照

⁶ 企業理念として、「フェアでオープンな立場から、時代の先を読み、お客さま、経済・社会、そして社員の〈豊かな実り〉を実現する」を掲げ、「オープン」、「経済・社会」、「豊かな実り」をキーワードとしている。

⁷ https://www.smfg.co.jp/sustainability/report/pdf/impact_report_j_2024.pdf を参照

は何かという定義付け、同グループにとっての重要な取組みが特定されている等、網羅性が確保され、“等身大（ありのまま）”の開示内容になっていることが大きな特徴として挙げられよう。

(図表2)「インパクトレポート2024」のエグゼクティブサマリー



(出所) (株) 三井住友フィナンシャルグループ「インパクトレポート2024」4頁

(2) 事業会社における代表的な事例

(株) 丸井グループは、2024年7月12日、「IMPACT BOOK 2024⁸」を公表した(図表3)。「信用は私たちがお客さまに与えるものではなく、お客さまと共に創るもの」との思いで「共創経営」に取り組んでおり、本レポートの「丸井グループのインパクトの定義」にあるとおり、「インパクトの生み出す価値＝ステークホルダー価値＝企業価値」とした上で、ステークホルダー価値の対象に「将来世代」という概念を追加し、強く意識している。また、事業戦略とストーリーをロジックモデルへ落とし込み、インパクト達成までの道筋が明快に示されている点も大きな特徴である。本レポートは、統合報告書とは別に公表され、毎年、アップデートされていることから、投資家をはじめとするステークホルダーとの対話ツールとして大きな役割を果たしているといえよう。

(図表3)「IMPACT BOOK 2024」の目次

第1章 丸井グループがめざすインパクト

- 1-1. 丸井グループのインパクトの定義
- 1-2. 丸井グループビジョン2050
- 1-3. インパクトと利益の両立を実現するビジネスモデル
- 1-4. ビジョン2050の達成に向けたインパクトの設定
- 1-5. インパクト2.0と2030年インパクトKPIと財務KPI
- 1-6. インパクトを創出する構造
- 1-7. 丸井グループのロジックモデルの全体像
- 1-8. 3つのテーマのロジックモデル

第2章 「好き」が駆動する経済と社会課題解決

- 2-1. 世の中の変化：コスパ意識・メリハリ消費
- 2-2. 非コスパ経済
- 2-3. 丸井グループが目指す「好き」が駆動する経済
- 2-4. 「好き」を応援するビジネス
- 2-5. なぜ社会課題のために「好き」を応援するビジネスを推進するのか？
- 2-6. 「好き」を応援するビジネスと社会課題解決とのつながり
- 2-7. 「好き」を応援するビジネスの成長と社会課題解決の推進
- 2-8. まとめ

第3章 「好き」が駆動する経済と社会実験

- 3-1. 「好き」が駆動する「共創の場」と「社会実験」の関係
- 3-2. 丸井グループが目指す「社会実験」の姿と事例
- 3-3. 実験事例① 応援投資（みんなの電力）
- 3-4. 実験事例② 将来世代の事業創出
- 実験事例③ 「好き」を応援するカード
- 実験事例④ 「好き」を仕事に活かす組織づくり

第4章 社会課題とのつながり検証

(株)リディラバさまとの共創の取り組み

- 4-1. ステークホルダー対話の振り返りとフィードバック
- 4-2. 第三者視点を取り入れたロジックモデルの検証
- 4-3. 社会課題の構造化「一人ひとりのしあわせを共に創る」
- 4-4. 社会課題解決に向けたロジックモデル
- 4-5. 今後に向けた対応

第5章 インパクトKPIの進捗とインパクト測定・マネジメント

- 5-1. インパクトKPI① 将来世代の未来を共に創る
- 5-2. インパクトKPI② 一人ひとりの「しあわせ」を共に創る
- 5-3. インパクトKPI③ 共創のエコシステムをつくる
- 5-4. インパクト測定・マネジメントの体制
- 5-5. インパクト測定・マネジメントのサイクル
- 5-6. 23年度の実施内容

Appendix

1. (株)リディラバさまとの共創のプロセス
2. インパクト実績の集計方法について
3. 一人ひとりのお金の使い方を応援 ～応援投資～

(出所) (株) 丸井グループ「IMPACT BOOK 2024」7頁

⁸ https://www.0101maruigroup.co.jp/ir/pdf/impactbook/2024/impactbook2024_all.pdf を参照

3. 「情報の非対称性」の解消に向けて

インパクト開示は、ステークホルダーとの対話を通じて、「開示をすることで、どこを改善していけばよいのか」についてヒントをもらいたいという思いも込められているといえる。

特に（株）丸井グループの事例にみられるような透明性の高いインパクト開示に対し、投資家等には、自らの評価基準を対話の中で開示する等の姿勢が求められているといえよう。すなわち、対話では、投資家側は一般論的ではなく個別具体的に評価基準を開示し、企業側はインパクトの創出に向けた具体的な取組みを開示することにより、双方で「情報の非対称性」の解消に努め、平等・公平・対等な関係が維持されることが望まれているといえるのではないだろうか。「情報の非対称性」の解消が進めば、今後、透明性の高いインパクト開示が産業横断的に波及していく大きなきっかけになると期待できよう。

以 上

<参考文献>

- ・（株）みずほフィナンシャルグループ（2024 年5月）「インパクトビジネスの羅針盤」
- ・（株）三井住友フィナンシャルグループ（2024 年8月）「インパクトレポート 2024 ～SMBC グループの社会的価値創造～」
- ・（株）丸井グループ（2024 年7月）「IMPACT BOOK 2024」

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。